

提 言

今こそ、子育て支援を

大日向雅美 (恵泉女学園大学大学院教授／
子育てひろばくあい・ぽーと>施設長)

子育て支援に対する社会の関心が高まっています。その一方で「なぜ子育て支援が必要なのか？かえって親を甘やかすことになるのでは？」と懐疑的な声も一部に根強いものがあります。「最近の親はひどい！」と批判する向きもあって、「モンスター・ペアレント」なる新語も登場し、学校や園側は対応に苦慮しながら訴訟保険への加入や対応を外注する方向で検討したり、親を教育し直そうとする提言も各方面で検討されています。

しかし、今の親はそんなにひどくなっているのでしょうか？ 子育て支援の現場に身を置き、日々子育てに奮闘している親と間近に接していると、必ずしもこの指摘に賛成しかねます。歴史的にも今ほど親が子育てや教育に熱意を傾け、同時に悩みを抱えている時代はありません。少子化時代を迎えて誰もが高等教育を受け一方で、余りにも短期間で社会が大きく変わり、子育ての目標も定め難くなっている背景があります。困惑させられるような言動をとる親がいないわけではありませんが、そこには必ずや理由があります。原因を頓着せず、表面的な言動の一部始終をセンセーショナルに問題視する動きがこれ以上続けば、解決に向かうよりも親を追い詰めることが懸念されます。

よく言われるように子育て支援は親支援です。支援者も親と共に育ちあう心で寄り添いつつ、子育てに戸惑い悩む声をしっかり受け止めて、親が育っていく過程を見守りたいものです。



子育てひろばくあい・ぽーと>
エントランス



施設長の子育て講座：ゼミ形式で学びあう母親たち

写真提供 大日向雅美